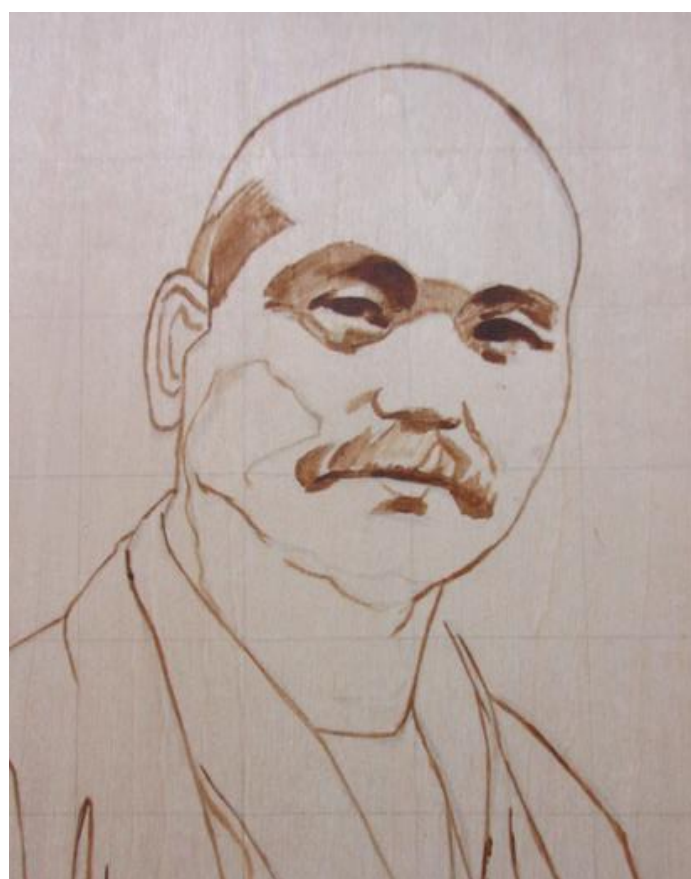


熊本が生んだ台湾大甲の聖人

志賀哲太郎

資料集



志賀哲太郎顕彰会

題字：志賀哲太郎顕彰会会長

宮 本 睦 士

口絵：イラストレーター

増 田 理 子

熊本が生んだ台湾大甲の聖人

志賀哲太郎

資料集

平成29年12月

志賀哲太郎顕彰会

目 次

序文 志賀哲太郎顕彰会会長	1
序文 台湾台中市大甲区区长	2
第1章 出生から渡台まで	
1- 1 熊本県田原村で出生	5
1- 2 中村傳兵衛のてほどき	7
1- 3 志賀塾	9
1- 4 神水義塾	10
1- 5 明治法律学校	12
1- 6 新聞記者	13
1- 7 教育勅語発布	15
1- 8 記者辞職	16
1- 9 原水小学校で教師	18
1-10 大原義塾で教師	20
1-11 台湾民主国	21
1-12 台湾平定	23
1-13 芝山巖精神	24
第2章 台北から台中へ	
2- 1 渡台	27
2- 2 台北で酒店営業	29
2- 3 鉄道御用達商	31
2- 4 土匪・マラリア	33
2- 5 大甲	34
2- 6 代用教員に採用	36
第3章 文昌校時代	
3- 1 文昌祠居所	39
3- 2 文昌校	41
3- 3 就学制度	43
3- 4 教科	44
3- 5 生徒勧誘	46
3- 6 進学の勧めと就職の斡旋	50
3- 7 時間厳守	52
3- 8 礼儀	54
3- 9 学費支援	56
3-10 三宝	57
3-11 人間性の養成	58
3-12 釣り	59
3-13 男女の仲	60
3-14 島村ソデ	61
3-15 住民の理解者・相談者	63
3-16 戸口調査委員	65
第4章 三堡校時代	
4- 1 三堡校	67
4- 2 三堡宿舎	70
4- 3 近隣の教え子たち	72

4- 4	同郷人	75
4- 5	漢学抹殺反対	77
4- 6	金子校長罷免	78
4- 7	新校長	80
4- 8	任官拒否	82
4- 9	始政記念表彰等	86
4-10	政界の闘士	87
4-11	分教場兼任	88
4-12	勤続20周年祝賀会中止	89
4-13	民族運動	91
4-14	大甲の民族運動組織	93
4-15	教職解雇	96
4-16	勤続25周年祝賀会	97
4-17	自決	99
4-18	遺書・遺品	101

第5章 大甲の聖人

5- 1	聖人を見送る	103
5- 2	鐵砧山に埋葬	105
5- 3	教え子呉淮水の怒り	107
5- 4	島村ソデの対応	109
5- 5	墓碑建設委員会	111
5- 6	建碑式	113
5- 7	墓誌銘	116
5- 8	熊本と新高山の墓碑	120
5- 9	芝山巖合祀	122
5-10	志賀文庫	124
5-11	没後10周年墓前祭	126
5-12	志賀先生記念園計画	128
5-13	教え子の活躍	129
5-14	墓碑撤去阻止	132
5-15	生誕100年祭	133
5-16	志賀墓園埋没	135
5-17	哲太郎の墓碑を囲む教え子の墓	136
5-18	文昌祠入り	138
5-19	清明節	139
5-20	恩師志賀哲太郎	140

附録

1	大甲公学校教職員	143
2	志賀哲太郎をめぐる人々	148
3	行政官、業者等	159
4	親書	161
5	動画「大甲の聖人 志賀哲太郎」	163
6	年表	165
	あとがき	170
	協力者・参考引用文献	171

「熊本が生んだ台湾大甲の聖人 志賀哲太郎 資料集」の発行にあたって

異国の地、台湾大甲において、生前から人々に聖人として敬われ、没後 90 年余を経た今日においてもなお、その遺徳は畏敬の念を伴って「台湾大甲の聖人」と語り継がれている伝説の教育者、志賀哲太郎先生。

「志賀先生が現代に蘇って来られた！」・・・ この資料集の原稿を読んだときの第一印象です。

志賀先生は、日清戦争後に日本に割譲された台湾で、公学校（台湾人の小学校）の代用教員として一貫して大甲の街（現台中市大甲区）に住み続け、台湾の子どもたちの教育に半生を捧げられました。また、先生の人間性、崇高な生き方、教育観等は大甲の街の人々にも多大な影響を与えていきました。しかし、先生の活躍・業績の場が異郷の地であったため、出身地の熊本県（益城町田原）では、ほとんどその名前は知られていないのが現状でした。

本顕彰会では、先生の功績をぜひ多くの皆様に紹介したいという思いで「志賀哲太郎小傳」を平成 29 年 2 月に発刊しましたが、「資料集」の出版も併せて考えてきました。

しかし、資料収集は簡単には進みませんでした。「資料集」作成の担当者であった増田隆策氏（本会会員・郷土歴史研究者・元山都警察署長）は、「会誌 2 号」（平成 29 年 8 月発行）の中で、「志賀先生の研究を始めて数年経ちましたが、直筆の資料が全く発見されないなど、先生に関する資料の発掘は依然として困難な状況にあります。それでも、伝聞を裏付ける傍証的資料が徐々に見出されつつあり～（中略）～台湾に残っている資料や台湾の研究者の成果物も調査して、謎に満ちた聖人の姿を事実に基づいて明らかにし、先生の真の遺徳を多くの人々に伝えていきたい」と決意を記されています。

この言葉どおり、増田氏は自身の研究を後回しにして資料発掘に奔走されました。2 年間で膨大な資料が蓄積され、客観的な視点から整理していかれました。平成 29 年 11 月に実施した第 2 次訪台でも、調査班員として綿密な計画のもと、先生ゆかりの地を、それこそ足を棒にして訪ね歩かれました。あくまでも事実に基づいて多角的に考証しようとする氏の研究者としての生き方・姿を見た思いです。また、氏は「台湾大甲区や地元の歴史研究者・張慶宗先生の全面的な支援と資料提供があっではじめてできた」と言われていますが、この事実も決して忘れてはいけないと思います。

こうした担当者や多くの皆様の努力や協力によってできた待望の「資料集」は、正に自身の濃い、資料集の域を超えた書物となりました。今後、志賀哲太郎先生を研究する上で定本となると言っても過言ではないと思います。また、台湾大甲区にとっても貴重な資料の一つになるのではないかと考えます。

最後になりましたが、故松野國策先生（初代会長）にもいい報告ができます。ご支援いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 29 年 12 月 29 日

（志賀哲太郎先生と松野國策先生の奇しくも同日となったその御命日に）

志賀哲太郎顕彰会会長 宮本睦士

序文

真善美教育的實踐者－志賀哲太郎

日本熊本人志賀哲太郎先生於大甲逝世（1924年）已近一世紀，他的事蹟至今仍被大甲人懷念與追思，尤其在當時內外環境艱難之際，若非有肝膽相照之氣魄，無法維繫此英名之久長。

吾接篆大甲區公所區長以來，秉持傳統先例，每年清明節前，率一級主管前往鐵砧山南麓敬掃「貞節媽」與「志賀哲太郎」二墓。前者在150年前三次祈雨，每次皆解危大甲兵燹之災，大甲城民跪爬至其家叩頭道謝，其功堪比天高。後者志賀哲太郎先生，為日人在大甲的代課教師，他以「真善美」之心教育大甲的子弟，卒後，上千個學生之後代，一代傳一代，前往其墳前致敬。依歷任鎮長之例，前往致敬。同時也深入了解一位日本人何以受本地居民敬仰，一定有其獨特之處。

文獻載：志賀先生原為高學歷的知識份子，擔任報社記者，積極參與政治。當他看破爾虞我詐的政治後，回到故鄉，一心想當兒童的啟蒙教師，卻事與願違，遂隨當地移民潮，前來剛割讓給日本的台灣。後因瘧疾被送至大甲鎮瀾宮的臨時醫院醫治。癒後，恰遇大甲公學校的創設，透過好友廳長的推薦，而成為大甲公學校的創校老師。創校好幾年間，志賀發現該就學的兒童未就學者偏多，於是勤訪家庭，鼓勵讀書，遇到經濟弱勢者，則提供金錢贊助讀書，表現「人性至善」的品格。

日本是個崇尚禮節的民族，志賀老師更顯示出其教養：當學童以戲謔的方式，從四面八方，逐一向志賀老師行禮，志賀也逐一回禮如儀；當孩童捧腹大笑，志賀也跟著大笑，如同祖孫間的天真嬉戲，展現「純真心胸」。因志賀老師認為統治國家更該善待被統治國家的子民而不被當權者接受，當學生因集體罷課遭退學時，老師向校方請求原諒學生之無知未果，最後以死相諫，驚恐了當事者，更震驚了大甲的鄉紳、學童與家長，數公里長的送殯人潮，顯示出志賀「至美靈魂」的人格。

歷史上的台灣大甲，有著千萬人曾生活在這塊土地上的記憶，無論是精彩或困頓的日子。始終對大甲人民不離不棄的「貞節媽」和「志賀哲太郎」兩位偉人，慶幸都有「傳記」流傳，古蹟也留存，他們的事蹟深深地烙印在大甲人民的心靈深處並世代流傳。

今欣聞日本九州熊本縣的「志賀顯彰團」將出新書，宣揚「志賀」的偉大人格，付梓前，特前來大甲交流與核對書中文稿，本人特別祝福新書發表成功，祈願志賀偉大人格，能被世人傳頌。

臺灣台中市大甲區區長 劉來旺

【日本語訳】

序文

真善美の教育者—志賀哲太郎

日本熊本の人、志賀哲太郎先生が大甲で亡くなられて（1924年）、すでに一世紀近くになります。先生の御事績は今なお大甲の人々に追慕されておりますが、あの内外ともに苦難に満ちていた時代、人々と互いに肝胆相照らし心をついにしようとする気概がなかったなら、このような英名を永く保つことはできません。

私は大甲区公所の区長となって以来、伝統先例に則り、毎年の清明節の前には幹部職員を引き連れて鐵砧山南麓の「貞節媽（大甲三神の一神）」と「志賀哲太郎先生」の二つのお墓に詣でて参りました。前者は150年前3度雨の恵みをもたらし、戦争の度に戦火から大甲の街を守って来ました。大甲の街の人々はその遺跡に詣で、這うようにひざまづき、額ついてお礼を言います。その御利益は天より高いものです。後者の志賀哲太郎先生は日本人で、大甲の代用教員となられ、「真善美」を尊ぶ精神で大甲の子供達を教育されました。先生が亡くなられた後も、千人以上の教え子達が後の世も何世代にもわたってお墓に参拝し、敬意を表しています。鎮（町）長も代々、お墓に詣でて敬意を表します。そして、一人の日本人が地元住民に敬仰されているのは、先生が特別な何かをお持ちであったからであることを深く理解します。

文献によれば、志賀先生は元々高学歴の知識人で、新聞記者となり、積極的に政治活動をしておられました。しかし、先生は政治が騙し合いのようなものだと思われ、故郷に帰られます。そして子供を教育する教師になることを志しますが、思い通りに事が運ばず、台湾が日本に割譲された後の台湾への移民ブームの影響もあって、ついに当地台湾に移り住むこととなります。その後マラリアに罹り、鎮瀾宮の臨時病院に送られて治療され、病気が治った後、親しい友人の庁長（県知事）の推薦もあって、創設されたばかりの大甲公学校に赴任され、開校当初の教師となられたのでした。志賀先生は開校以来何年間も、就学適齢期の未就学児童がいると分かると、その家庭をまめに訪問され、読書を奨励し、貧しい者があれば金銭を提供して勉学を補助しました。それは先生の人並み外れた品格の表れでした。

日本人は礼節を大事にする民族です。志賀先生は特に礼節を重んじる人でした。子供達が面白がって四方八方から一人一人お辞儀をすると、志賀先生もその度に返礼をします。子供達がそれを見て大笑いすると、志賀先生も一緒になって大笑いします。それは祖父と孫の無邪気な遊びのようでした。そこに見られるのは「純真なる度量」とも言うべきものでした。

志賀先生は、国家統治のためには被統治国家の人々を大切にしなければならないと思っていましたが、それは権力者にとっては受け止めがたいことでした。あるとき、学生達が互いに語り合って集団で授業をボイコットし退学させられる事件がありました。志賀先生は学生達を罰することのないよう学校側に要請しました。そして終に、先生は死を以て諫めます。当事者ばかりでなく、大甲の名だたる人達、学童やその親達までもが驚きおののきました。数キロメートルにも及んだ長い会葬の列は、志賀先生の「この上なく美しい精神」を偲ばせるものでした。

台湾大甲の歴史において、かつて、幾千万人もの人々がこの地に生活し、記憶を留めて来ました。勿論いいときもあれば悪いときもありました。そんな長い歴史において「貞節媽」と「志賀哲太郎」の二人の偉人は、「伝記」や古跡が示すとおり、永く大甲の人々を見守ってくれました。このお二人の事績は大甲の人々の心の奥深く刻み込まれ、何代も後の世まで語り伝えられていくことでしょう。

日本熊本県の「志賀哲太郎顕彰会」が、志賀先生の偉大な人格を世に広めるため新しい本を出版することは喜ばしいことです。出版の前、大甲との間でも草稿を交換し照合しましたが、私はこのほかこの新書の発行と成果を嬉しく思います。また、志賀先生の偉大な人格が世の人々に広く伝わっていくことを心から願っております。

台湾台中市大甲区区長 劉 來 旺

（翻訳：彌富照皇・折田豊生）